PHOTO BY SUSANNA HOWE

# UPCOMING ROCK! BANDS '04



'04年注目のロック・バンド・リリース・ラッシュの中、その存在が際立つ4バンドをピック・アップ!!
オーストラリアのザ・ヴァインズ、デンマークのカシミール、イギリスのヘイヴン、
そしてアメリカのファントム・プラネット。あなたはどのバンドがお気に入り!?



## THE VINES

ザ・ヴァインズ

### 他のバンドだったらあのまま解散になってたかもしんないけど、俺達は違う

パトリック・マシューズ／The Vines　INTERVIEW：AI ANAZAWA

デビュー作「ハイリー・イヴォルヴド」でいきなりストロークスやホワイト・ストライプスらと共にガレージ・リヴァイヴァル・バンドとして祭り上げられ、世界中を飛び回り慣れないことをした結果、疲れてボトッと落っこちちゃったヴァインズ。その彼らが十分な精神的&肉体的休養と穏やかなレコーディング期間を経て帰って来た。新作「ウィニング・デイズ」が、前作よりも素直で純粋に、そして美しく聞こえるのは、ひと山越えて新境地に立った彼らの心境が、まるでそのまま投影されているかのようだ。
さて今月は、ツアーやプロモーションで忙しくなる直前、地元シドニーでダンディ・ウォーホルズのギグを観に行ったりしながらのんびりしていたパトリックを直撃。そして来月号では、クレイグのインタビューをお届けします。

――新作はよりサイケデリックになるという話を聞いていたので、一体どんなことになるんだろうと内心不安でしたが、とても美しく、それに何より前作よりも素直というか正直な音になっていると思いました。
パトリック・マシューズ（b.）：確かに俺、サイケデリックって表現してたもんね。でもそうは言っても、'60年代のアメリカのサイケ・バンドっぽいサイケじゃなくて、俺が言いたかったのは聴いた時に沸き上がる感情とか、変わったハーモニーとかのことで、知覚的部分にまで細かい配慮をしたから、その分ナイスで温かい音になったとは思うよ。みんな仲良く仕事出来たし。
――そのようですね。一昨年はアメリカ・ツアー中にあなたとクレイグ（・ニコルズ、vo.／g.）がステージ上で大喧嘩をして、残りのツアー日程もキャンセルされ、そのままバンドはお休みに入ったでしょう？そんな状態から新作作りに入るまでの心境の移り変わりはどんなものだったのでしょうか？
パトリック：当時は俺も頭に来てたよ。他のバンドだったらあのまま解散になってたかもしんないけど、俺達は違うんだろうな。
――それはあなたが大人だから片付いたの？
パトリック：ファースト・アルバムの時から比べたらそりゃ大人になったさ（笑）。あの時はね、俺もイヤになっちゃって…っていうか、もういい加減次のアルバムを作りたくなってたんだよ…。
――あなた個人的にお気に入りの曲は？
パトリック：個人的には「ファック・ザ・ワールド」だね。ヘヴィで、タイトルが表す通りのサウンド、特に最後の方はレイジ・アゲインスト・ザ・マシーン並み、セックス・ピストルズっぽいというか。「TVプロ」も好き。レコーディングしてから一週間ぐらい経った頃にロブ（・シュナッフ、プロデューサー）が“この曲いいね”ってボソッと言ってくれて。最初はアルバムに入れるほど大切な曲だとは思ってなかったんだけど、コーラスとかヴォーカルもなかなかおもしろい仕上がりになったから入れたんだ。

1月23日　シドニーにて収録